

経緯

公共交通の現況

小田原市においては、鉄道6線18駅、4社のバス事業者で路線バスを86系統運行しているが、平成14年度以降、路線バスの大幅な減便、廃止が複数回行われている。また、高齢化率・代表的交通手段を自動車とする割合が非常に高いことから、高齢社会に対応できる公共交通ネットワークを構築することが課題である。

目的・必要性

小田原市の公共交通のあり方について検討し、将来的に持続可能な公共交通ネットワークを構築するため小田原市の公共交通の状況、市民のニーズ等を把握するため必要な基礎データの整理・収集を行う。

目標・効果

小田原市の地域概況を把握するとともに、市内を運行するすべての路線バスについて、ICカードデータ等を活用して利用状況を把握することにより、次年度以降に予定されている「小田原市地域公共交通総合連携計画」及び「小田原市生活交通ネットワーク計画」の策定に活用する。

協議会構成員

住民利用者、商工会議所、警察署、道路管理者、交通事業者(バス)、交通事業者(タクシー)、労働組合、学識経験者、国(神奈川運輸支局)、神奈川県、小田原市

事業の概要

1. 地域概況調査

小田原市の社会経済状況等公共交通を取巻く現状について、既存統計資料等より整理・把握する。

(整理項目)

- 人口動向: 人口総数の推移、年齢構成の変化、人口配置の変化、世帯構成の変化等
- 就業動向: 就・従業者数の推移、就従比の変化、産業構造の変化等
- 経済状況: 工業生産額、商品販売額等の推移等
- 土地利用: 市街化の状況、土地利用の変化等
- 施設立地状況: 官公署、病院、公共施設、大規模店舗、歴史的建造物、観光名所等
- 道路状況: 交通量、渋滞箇所等
- 自動車保有台数の推移(貨物・乗用・乗合・軽自動車別)
- 観光入込客数の推移等

2. 路線バス利用状況調査

市内を運行する路線バスの利用状況について、バス事業者から提供を受けたデータ(ICカード、運賃精算機、実車調査データ等)を用いて、路線バスの運行状況、利用状況等を把握し、需要と運行サービスとの適切性を検討する。

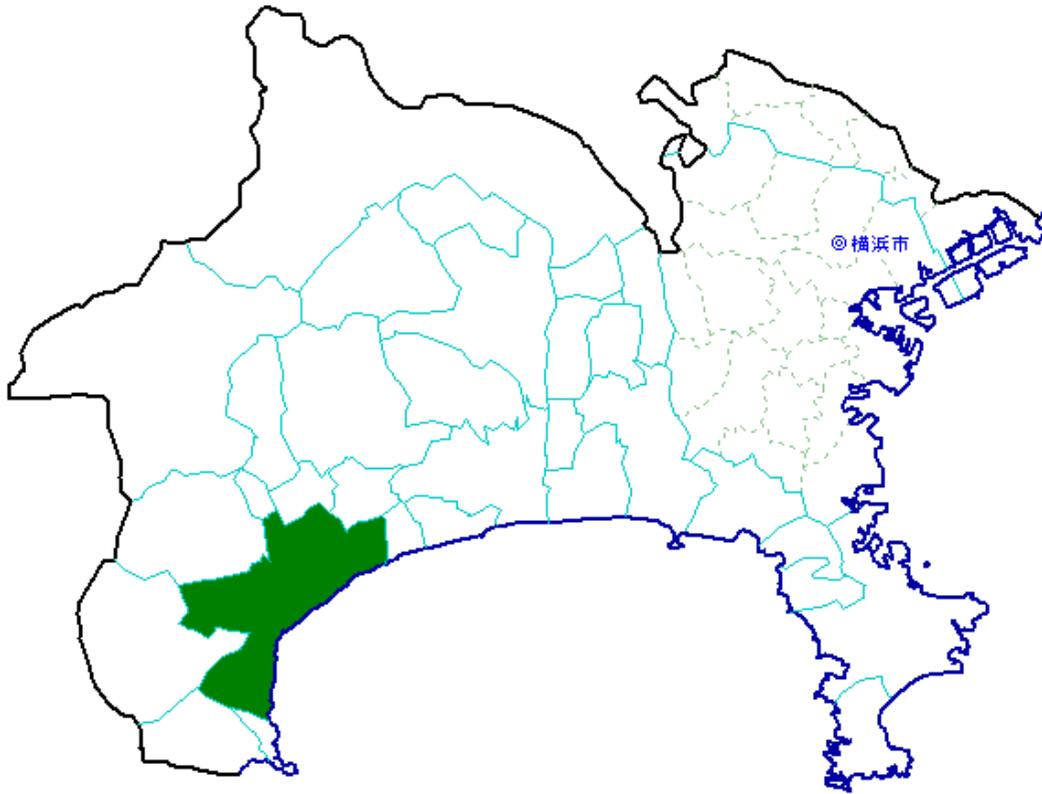
3. 交通機関乗継調査

市内主要駅において、鉄道からバス(又はバスから鉄道)へ乗り継ぐ利用者の属性、OD等を調査し、乗継に関する問題点の整理、課題抽出等を行う。

(実施概要)

- 調査対象: 小田原駅で鉄道とバスを乗り継いでいる利用者
- 調査方法: バス乗り場でのアンケート票の手渡し、後日、郵送で回収。
- 調査規模: 配布数 3,841票(2日間 平休各1日) 回収数 817票(回収率21.3%)
- 配布物件: 回収用封筒にお願い状、アンケート票を封入して配布

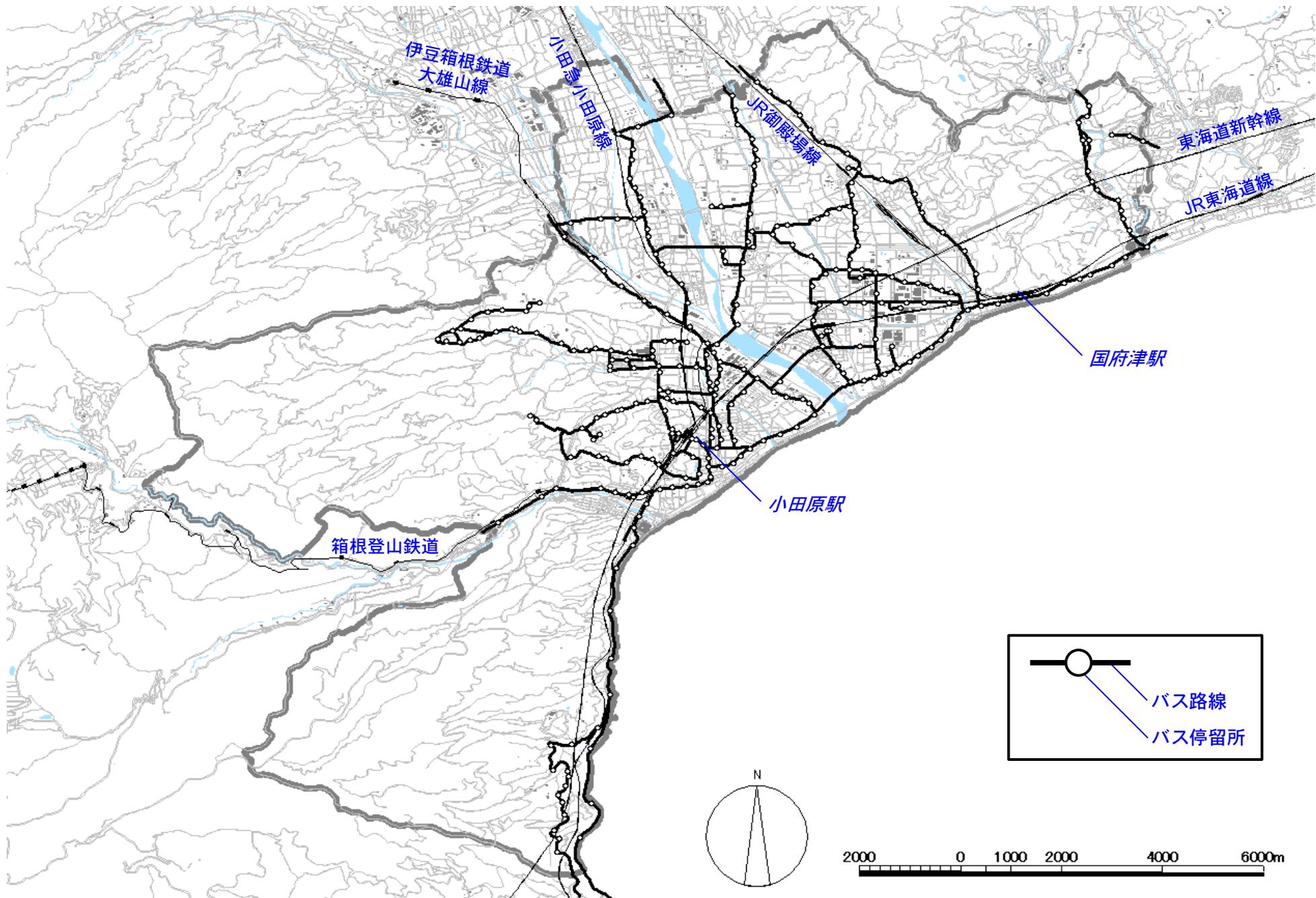
地域概況



国土地理院承認平14総複第149号

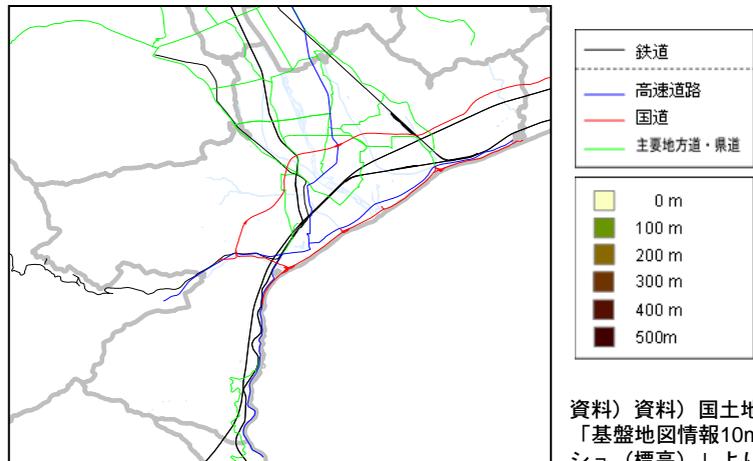
都道府県名	神奈川県	
市区町村名	小田原市	
面積	114.06 km ²	
人口 (H24.3.31時点) 資料)住民基本台帳	195,903 人	
	15歳未満	24,889 人
	65歳以上	47,545 人
高齢化率	24.27 %	
世帯数	78,499 世帯	

事業実施区域

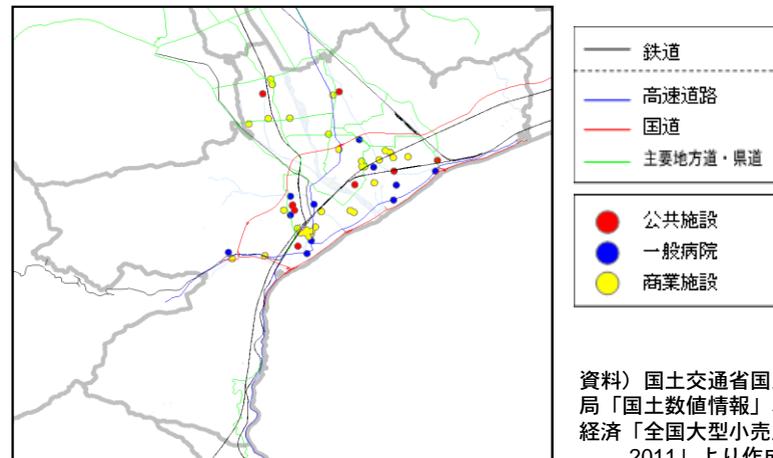


地域概況調査結果の概要

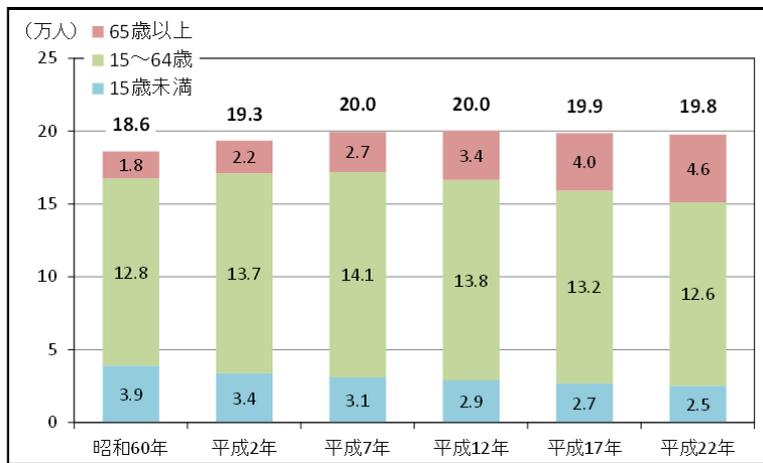
□ 地形：市の南西部は山地、東部は丘陵地帯で中央部は平野を形成している。



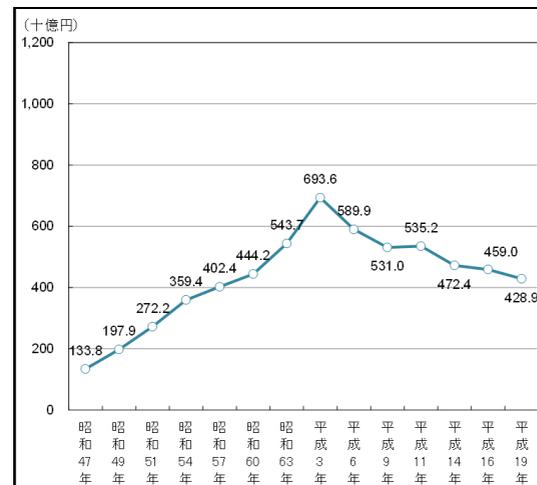
□ 施設：公共施設は駅周辺に、病院は駅か離れたところに、大規模商業施設は小田原駅東口や郊外に広く立地。



□ 人口：人口は、平成12年をピークに減少、高齢化率も23%と高くなっている。

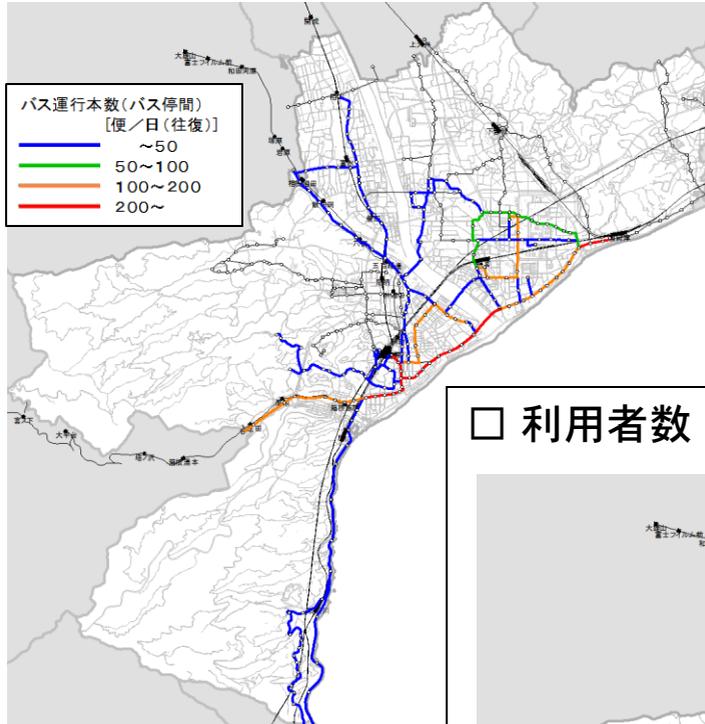


□ 商業：商業販売額は、平成3年をピークに減少している。

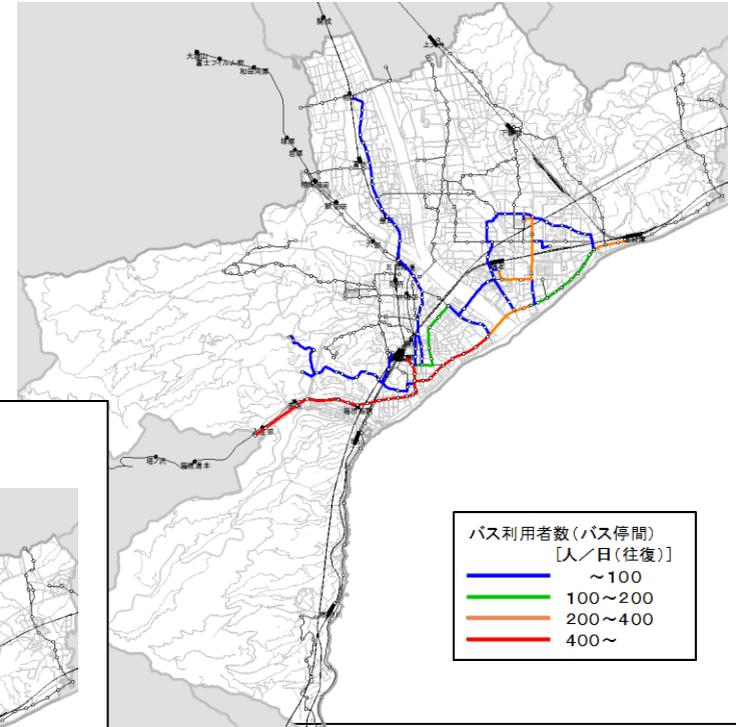


路線バス利用状況調査結果の概要

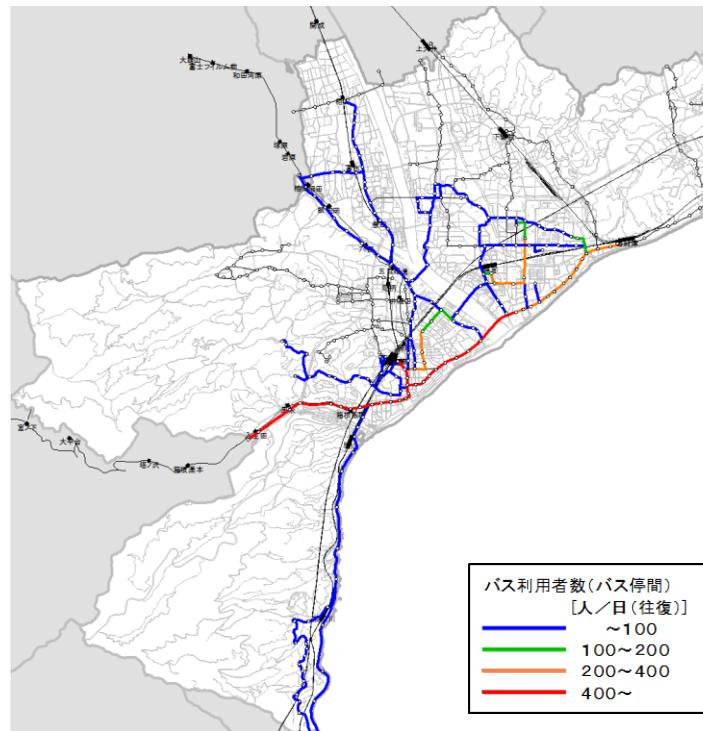
□ 運行本数（平日）



□ 利用者数（休日：H23.9.18）



□ 利用者数（平日：H23.9.15）



箱根登山バスの例

交通機関乗継調査結果の概要

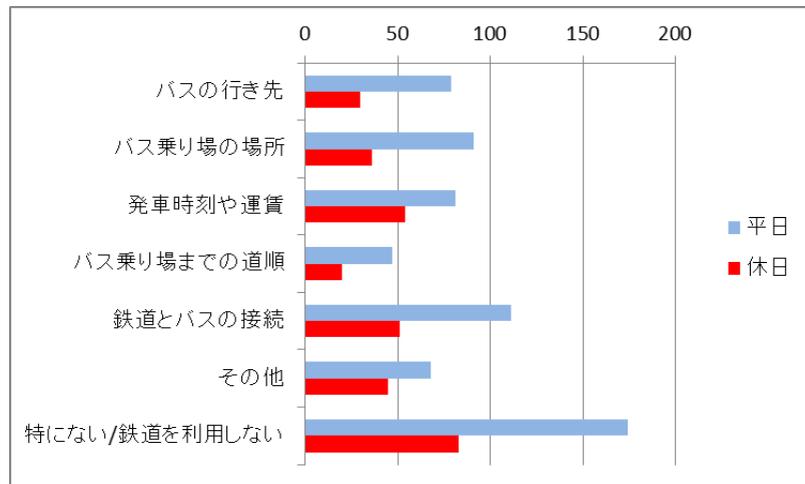
□ 配布・回収状況

アンケート票は約3,800人に配布し、817人（回収率：21.3%）の回収があった。

	配布			回収	
	東口	西口	合計	回収数	回収率
平成24年3月11日（日）	1,043	206	1,249	276	22.1%
平成24年3月14日（水）	2,012	580	2,592	541	20.9%
	3,055	786	3,841	817	21.3%

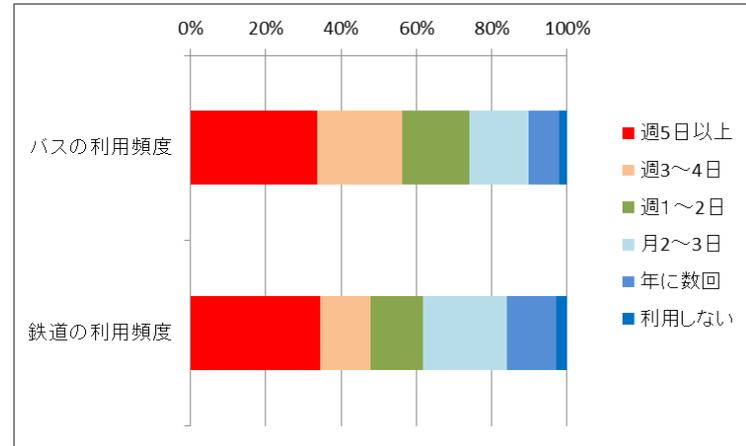
□ 鉄道とバスの乗換えで困ったこと

平日では「バスと鉄道の接続」が、休日では「発車時刻や運賃」も多くなっている。



□ 鉄道・バスの利用状況

回答者の鉄道・バスの利用頻度は「週5日以上」がともに30%程度と最も多くなっている。



□ バスの満足状況

「運賃」に対する不満が最も高く、次いで「出発時刻」となっているが、全体的に不満は低い。

